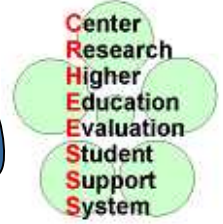


週刊センターニュース No.204



第204号(2008年4月21日)毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

学生の大学卒業程度の学力を認定する（海外の）仕組みについて

センターニュース上でこれまで、大学・高等教育の質保証に関わる論点について、中央教育審議会の答申や新聞報道等も折に触れながら紹介がなされてきた。入試の多様化が進み、学生の学力や学習動機の程度に大きな差が生じ、各大学は困難に直面しているが、こうした状況において、入口の質保証より「出口管理」によって達成しようとする動きがますます加速しているようにみえる。「学習成果」（アウトカムズ）はもちろんのこと、最近よく目にする「学士力」、専門分野別カリキュラムの「到達目標」、GPA 制度活用による卒業判定等これらは全て出口重視を示すキーワードである。こうした流れの延長で、国際的な学力調査を行う PISA に関わり、OECD は大学版のそれを構想しているとされ、文科省等関係者が大学卒業時の試験導入の可否を検討している。高等教育学会と関西国際大学が先導的の大学改革推進委託事業「学生の大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究」を共同受託し、現在主要国の動向を調査している段階である（私も韓国担当として情報収集を図っている）。上記の認定試験の実現可能性を考えるためにも、参加した数次の研究会で得られた情報を元に、ここではアメリカ・オーストラリア・イギリス スコットランド における質保証システムについて、ごく簡単に説明したいと思う。

アメリカは、地域ア krediteーション団体（6 つ）や専門分野別ア krediteーション団体によるア krediteーションを通じて一定の教育水準が保証されているが、近年、連邦教育長官諮問委員会の「リーダーシップが試される時 - 高等教育の将来像を描く - 」でも謳われているように、学生の達成度により教育効果を測定する動きが強く、ア krediteーション団体に対して、教育成果を重視するよう求めている。こうしたことから、アメリカ高等教育の様々な方面にかなり大きな影響を及ぼし始めている。各大学にあっても、GPA 制度に加えて、例えば critical thinking 能力や問題解決力等を測る CLA（Collegiate Learning Assessment）という試験や GRE（Graduate Record Examination）という試験が運用され、大学卒業の要件として位置づけている。

オーストラリアでは、「オーストラリア大学質保証機構（AUQA）」によるオーディット = Audit（学術監査）の実施を通じて、各大学における質保証システムを点検している。近年は、国内外の他機関とのベンチマーキングに基づき自分の大学の教育成果（効果）を明らかにするよう求められている。これに加えて、1995 年から段階的に導入された「オーストラリア資格枠組（Australia Qualification Framework）」が、中等教育・職業教育を含めた各セクターで提供される学位・資格について、期待する標準的な学習成果を規定し、オーストラリアの教育機関の学位の内容の標準化が進められている。その他にも、専門職団体・政府機関によるア krediteーションを通じた教育水準の保証が図られており、オーストラリア教育研究カウンスルは「大卒者技能検定（GSA）」の開発も進めている。

スコットランドでは、大学運営資金としての公的補助金の配分に関わって、高等教育審査機関（QAA）が教育の質保証に重要な役割を担っているが、他に、2001 年から実施の SCQF（Scottish

Credit and Qualifications Framework)が質保証システムの基本的な枠組みの一つとして機能している。これが、スコットランドの資格および学歴の枠組みを提示して、種々の資格、各レベルの学歴がどのような能力・技能を育成しているか、そうした能力や技能の関連性や接続性がどのようになっているかを学習者、雇用者や社会に説明することが可能となっている。学習成果の程度は、SCOTCATポイントとして明示され、単位が異なる高等教育機関間で移すことが可能で、大学への編入学促進などの高等教育機会の拡大にも寄与している。各大学もこの枠組みに則って、学位授与、卒業判定等の方針を決めている。

以上のように上記の3国では、質保証システムの有力な方法として、全国的な大学卒業時の学力試験に類するものを既に実施しているか、導入を計画するとしてもそれを受け入れるだけの素地（成熟した別の仕組み）があると思えるが、日本の場合はそうした基盤（部分の分野を除いて）が形成されておらず導入にはいくつかの壁が立ちはだかっている。（文責 評価システム研究部門 渡辺達雄）

角間ランチョンセミナー

平成20年度前期の角間ランチョンセミナーが10日(木)より開催しております。スケジュールは、大学Webの「イベント情報」(<http://www.kanazawa-u.ac.jp/events/index.html>) - 「学内行事」の項目からご覧いただけます。また「アカンサスポータル」においても「ランチョンセミナー」の項目で確認することができます。ランチョンセミナーでのご報告も随時募集しております。info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp までご連絡下さい。

- 第8回 4月21日(月) 学生トレーナーの取組み アスレチックトレーナー部
- 第9回 4月22日(火) レポートの書き方 入門編 青野 透(大学教育開発・支援センター)
- 第10回 4月23日(水) 新入生歓迎コンサート マンドリンクラブ
- 第11回 4月24日(木) ミニコンサート アカペラサークル「メロメロ」
- 第12回 4月25日(金) Let's CHEER!! チアリーダー部 GRENN APPLES

高等教育に関連する研究会・セミナー情報

・5月17日(土) 13時~17時 私立大学フォーラム福岡「認証評価システムの大学改革への活用」
会場：博多全日空ホテル「万葉の間」(福岡市博多区博多駅前3-3-3)
パネリスト：生和秀敏(大学基準協会特任研究員)、坂本和一(立命館大学経済学部教授)、川本明人(広島修道大学学長)、安岡高志(立命館大学教育開発推進機構教授)

コディネーター：山田清志(東海大学教養学部教授)

問合せ先：社団法人 日本私立大学連盟ソーシャルリレーションズオフィス

TEL：03-3262-2463 E-mail：sro@shidairen.or.jp

詳細は、<http://www.shidairen.or.jp/blog/files/doc/2008forum.pdf> を参照

・6月2日(月) 13時~17時半 東京大学大学経営・政策研究センター、IDE大学協会共催「教育効果アセスメントと持続的な大学改革」

会場：東京大学理学部小柴ホール(東京都文京区本郷7-3-1)

報告者：V.ボーデン(インディアナ大学副学長補佐)、鈴木敏之(文部科学省高等教育局)、金子元久(東京大学大学経営政策研究センター長)、島一則(広島大学高等教育研究開発センター)、両角亜希子(東京大学大学経営政策研究センター)

申込み：氏名 氏名カナ ご所属 メールアドレス IDE個人会員の方は会員種別(維持・学生・通常会員)を明記し、ide200806@ide-web.net まで

詳細は、<http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/files/osirase/20.06.02.pdf> を参照